

# 6：中材のマネジメント等 FAQ特集

最終回

医療法人伯鳳会 赤穂中央病院  
感染管理認定看護師/特定看護師  
勝平真司

# 中材マネジメント FAQ！！

- 1.総論 中央材料室とは？問題提起！
- 2.洗浄・消毒について
- 3.滅菌について

終了



視聴者の皆様から数多くの質問をいただきました。

4.洗浄FAQ終了→5.滅菌関連FAQ→**最終回**



Q1:管理者として配置されました。マネジメントの視点からどのような配慮や心がけが必要でしょうか？

所属部署：手術室、中材  
勤務年数：2年  
(キャリア30年)

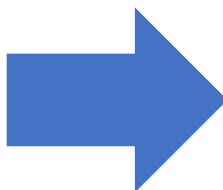
A:中材は専門的な部署です。感染対策の知識を付ける事、使用器材を洗浄、消毒、滅菌し、確実、安全、迅速に各部署へ送り患者に使用する事が第一の目標です。滅菌技師等の資格を持った職員、経験年数の長い職員と連携する事、スタッフの教育モチベーションが下がらないようとても必要な仕事をしている事を院内でアピールする事も大切です。

その他、洗浄器、滅菌器が故障した時に迅速にリカバリー出来る体制等。

# 参考書籍



<https://www.jicsa.net/hanbai/8th.pdf>



- 第1章 セントラルサービス導入
- 第2章 セントラルサービステクニシャンのための医学用語
- 第3章 セントラルサービステクニシャンのための解剖学
- 第4章 セントラルサービステクニシャンのための微生物学
- 第5章 規制とスタンダード
- 第6章 感染予防
- 第7章 除染：使用地点での準備と搬送
- 第8章 洗浄と除染
- 第9章 消毒
- 第10章 手術器械
- 第11章 複雑な手術器械
- 第12章 組み立てと包装
- 第13章 使用地点での処理
- 第14章 高温滅菌
- 第15章 低温滅菌等
- 第16章 滅菌保管と搬送
- 第17章 セントラルサービスのモニタリングと記録の保持
- 第18章 質保証等（24章まで）

Q2:古くから地域に根付いた病院なのですが、滅菌に関してではコストがかかると改良出来ないでいます。BDもBIもやらせてもらえずCIのみの判定で滅菌保証はどうなるのでしょうか？（1日のオペ件数は多くて3件、主にバリックス、ウロ系のオペです。時々抜釘）

所属部署：中材  
勤務年数：14年

A:滅菌保証は様々な滅菌効果判定を複合的に見て評価します。CIのみでは滅菌保証した事にはなりません。本来、件数、術式は関係ありませんが院内の方針、優先順位を検討する必要があります。院内で滅菌保証について必要性を協議、また外部評価や近隣の情報、ガイドライン等を元に改善出来るよう働きかけてみて下さい。時間はかかるかもしれませんが信念を貫いて下さい。

Q3:予算をつけて機器更新を順調に進められているイメージがありますがどのようにその権利を勝ち取っておられるのか詳しくお伺いしたいです。

所属部署：不明  
勤務年数：不明

A:感染対策はコストがかかります。感染症治療薬は収益に直結しますが感染対策は収益が目に見えません。感染が起きるとどれくらいコストがかかるのか？包括医療制度（DPC）を導入されている施設が多いと思いますが、感染し、入院期間が伸びれば病院の収益に影響することや、一度に全て更新するのではなく、作戦を考えて提案し、ビジョンをしっかりと伝えること。購入に関わる人達と普段からの信頼関係の構築が大切等・・・。

管理者、リーダーは焦らない！諦めない！

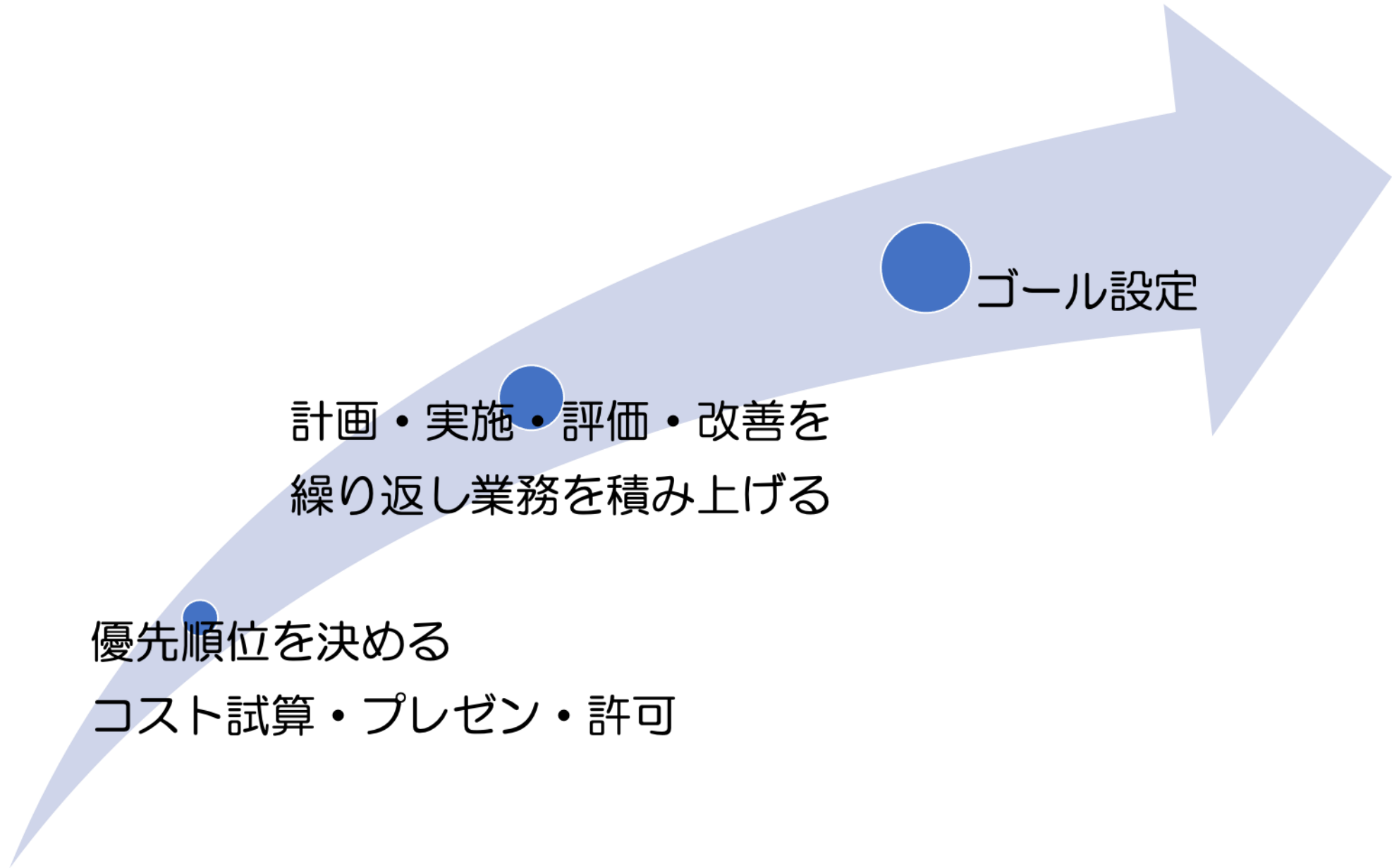
①全国や近隣施設、  
グループ内の状況を  
知る

③協力者を探す

②院内全体を見る

④外部評価を活用  
する

# リーダーはビジョンを示す事が大切





Q4:洗浄器、滅菌器等を購入するとメーカー保証が1年ついてきますが、2年目以降の保守契約を結んでももらえません。どうすれば保守を結んでももらえるのでしょうか？

所属部署：手術室  
勤務年数：30年

A：院内全体を見渡し、広い視野で提案する能力が必要

- ①院内での保守の優先順位を確認する
- ②年度予算を確認する（年度予算がない施設もある）
- ③1年保証が終わるまでに保守契約の内容、コストを提示してもらい、検討しておく（根回し）

Q5:滅菌技師の資格はあったほうがいいかこの病院で看護助手として移動もあるかもしれませんが・・・

所属部署：中材  
勤務年数：7年

A:資格を取得するという事で中材の業務レベルは上がります。外来や手術室との連携もスムーズになります。病院からの要望で資格を取得する方がベストですが、そうでない場合は、自費で講習、更新時もお金、そして時間もかかりますのでトータル的に考えて決断する必要があります。

# 追加資料（中材関連の資格一覧）

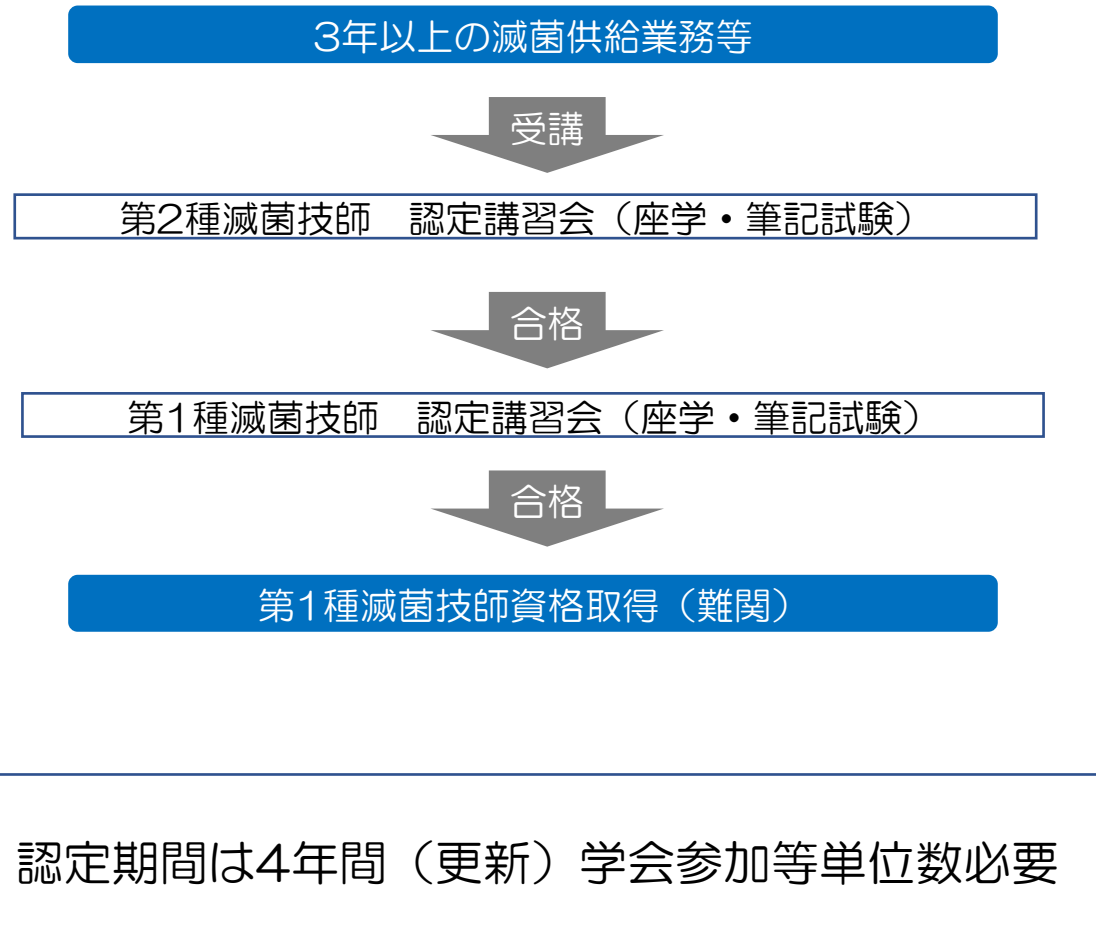
## ①滅菌技師（第1種、第2種滅菌技師）

- 第1種：専門的な知識及び技術を習得している者  
第2種滅菌技師を対象（1回/年 2日間の講習会后学科試験）
- 第2種：基本的な知識を習得  
3年以上の滅菌供給業務実務経験、講習終了後学科試験学会の正会員  
いずれも更新性：詳細は日本医療機器学会HP

## ②滅菌管理士 滅菌消毒業務委託責任者

- 滅菌管理士：3年以上の滅菌供給業務実務経験、一次、二次試験
- 滅菌消毒業務受託責任者（受託責任者、院内受託責任者）  
いずれも更新性：詳細は日本滅菌業協会HP

# 滅菌技師の場合



<https://www.jsmi.gr.jp/license/sterilization/class/>

# 滅菌管理士の場合



<http://www.ajss.info/license.html>

Q5:病院機能評価に対しての個人病院が出来る内容事やこれは実践しておいたら良いなどアドバイスをお願いします。

所属部署：手術室  
勤務年数：18年

A:とにかくアピールすること！！こんなに熱い想いで中材業務  
してます！！こんな取り組みをしています等。

病院機能評価は監査とは違います。

最終評価で院長はじめ看護部長、事務長へ日々の業務を認めて  
もらいましょう！！

# ポイント

病院の機能・規模に応じて医療器材の洗浄・滅菌が適切に実施されているか評価する。

- 洗浄は中央化されていることが望ましい
- 使用済み器材の一次洗浄・消毒の中央化
- 滅菌質保証（ここ特に大切です！！）
- 各種インジケータの意味を理解し、確実に実施されている
- 既滅菌物の保管・管理
- 使用量及び滅菌能力に見合った在庫量

# 参考資料（当院の質問事項）

- 教育方法
- 洗浄室から滅菌室の動線
- 洗浄から滅菌までの流れ
- 滅菌保証のためのツール
- 滅菌器の種類
- 有資格者
- 委託か自前職員
- 管理者、職員数
- リコール対応
- シングルユースの再滅菌
- インプラントの再滅菌
- リユースの一覧
- リユースの頻度
- リユースの承認

# 2022年度診療報酬改定 感染対策の診療報酬が充実

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、感染対策の重要性が再認識されました。

## 主な加算

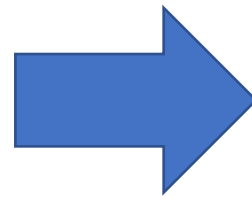
- ①感染対策向上加算1：710点
- ②感染対策向上加算2：175点
- ③感染対策向上加算3：75点
- その他 外来対策向上加算：6点

診療報酬で得たコストまたは得られる予定のコストを使用して院内で優先順位を決め、感染対策（中材含め）を強化していきましょう！感染対策委員会で中材の感染対策をアピールしましょう。



# おわりに

- 中央材料室の場所は？どれくらいの職員が答えられるのでしょうか？→**全職員**
- 中央材料室って何をする場所？どれくらいの職員が答えられるのでしょうか？→**全職員**
- 中央材料室のイメージを一言で表すと？どんな答えが返ってくるのでしょうか？→**とても重要な役割を持つ部署**



# 引用・参考文献

- AHCSMM セントラルサービステクニカルマニュアル第8版.
- <https://www.iicsa.net/hanbai/8th.pdf>
- <https://www.ismi.gr.jp/license/sterilization/class/>
- <http://www.ajss.info/license.html>
- <https://www.jq-hyouka.jcqh.c.or.jp/>
- <https://gemmed.ghc-j.com/?p=46091>